

普及情報

県内酪農で新規就農者が第三者経営継承しました！

秦野市内の「小林牧場（小林哲夫代表:69歳）」を農外から新規就農した小川翔吾さん（32歳）が第三者継承し、令和3年4月1日から「リトルリバーファーム」として酪農経営を始めました。畜産技術センター普及指導課では、関係者と連携して事業継承が円滑に進むよう支援に取り組み、現在も経営確立に向けた支援を行っています。

背景・経緯

小川さんは、農業高校から酪農専攻の大学へ進学し、大学卒業後、畜産技術センターの職員として6年間勤務し、その後は八王子市や伊勢原市の牧場で従業員として勤務していました。いつか自身の牧場を持ちたいとの思いを抱くなか、小林さんと出会い、昨年10月から小林牧場の従業員として働きながら、酪農経営に関する技術や知識の習得に取り組んできました。

経営継承に向けた取り組み

小川さんから新規就農の相談を受けていた普及指導課では、小林さんが後継者不在による廃業を検討していたことから、令和2年3月から両者のマッチングを始めました。経営継承にあたり、秦野市役所、はだの都市農業支援センター、日本政策金融公庫、普及指導課で構成するコーディネートチーム「秦野市酪農事業継承会議」を令和2年4月に発足させ、認定新規就農者の認定、資産評価、収支計画、資金の借入、酪農経営者としての技術習得等について支援を行ってきました。

小林牧場での従業員としての6か月間の研修終了後、契約書や覚書が交わされ、牛と機械を購入するための資金融資も実行され、「リトルリバーファーム」の経営が始まりました。

小林牧場での従業員としての6か月間の研修終了後、契約書や覚書が交わされ、牛と機械を購入するための資金融資も実行され、「リトルリバーファーム」の経営が始まりました。

今後の経営確立に向けて

経営を移譲した小林さんからは「親の代から大切に培ってきた牛や技術、財産をしっかりとった若者に継承できてうれしい。今後の県内酪農の経営継続の一つの手段として参考になればいい。」と感想が述べられ、経営を継承した小川さんからは「今、まさにスタート地点に立ったところです。2年後には土地、建物を購入する計画です。経営が軌道に乗ったら酪農経営を目指す後輩たちの面倒も見れるような牧場にしていきたい。」と決意が述べられました。

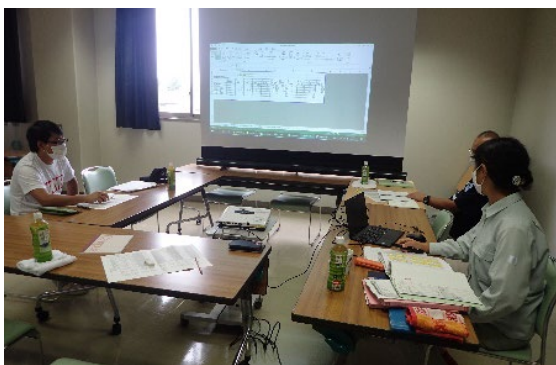
第三者継承は移譲者の技術、経営、販売先等を引き継ぐことが条件となりますが、小林さんの想いもしっかりと受け継ぎ、新たな担い手としての今後の活躍が期待されます。



継承者の小川さん（左）と移譲者の小林さん（右）



秦野市酪農事業継承会議は、毎月1回のペースで開催



小川さんと普及指導課の勉強会

研究情報

「ユメカナエル」を活用した改良型種豚の開発

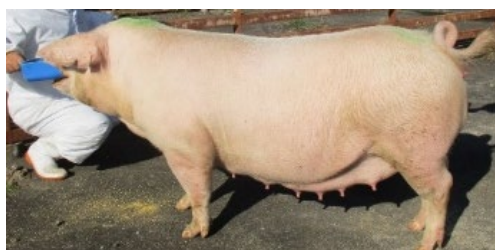
ランドレース種系統豚「ユメカナエル」は、完成から18年が経過し、今後近交係数の上昇による能力の低下が心配されます。また、県内生産者から、より繁殖性に優れた種豚に対するニーズが高まっています。そこで、「ユメカナエル」の種雌豚と繁殖性に優れた国内外の民間種雄豚を交配し、「ユメカナエル」の強健性の形質（体型）を維持し、より産子数の多い新たな種豚の作製に取り組んでいます。

「ユメカナエル」と民間種雄豚との交配で作出された雌豚の産子数は、「ユメカナエル」と比べて1～2頭程度多くなりました。

今後、これらの雌豚に更に「ユメカナエル」を交配して生産した改良型種豚の能力を調査する予定です。



CHRISTOPHER
(SGI社)



MARKB
(SGI社)



アレキサンダー3237
(富士農場サービス社)

「ユメカナエル」に民間種雄豚を交配して作出した雌豚

研究情報

環境制御型養豚施設の暑熱対策

空調システムと微生物脱臭システムを備えたドイツのモラー社の環境制御型豚舎は、脱臭性能に優れており、豚舎から発生する多くの特定悪臭物質を外に排出しないことがわかりました。しかし、日本と気候が大きく異なる欧州の気候に合わせた空調システムであるため、高温多湿の日本の夏季の気候に適応するかが課題でした。

2020年は、夏季に導入した豚の日増体量が、他の季節に導入した豚より著しく劣ったことから、2021年は暑熱対策として、豚舎への入気口付近にドライミストを設置し、日中噴射しました。これにより、2020年には外気温より1.5℃高かった豚舎内の室温は、2021年には1℃程度低くなり、夏季に導入した一部の豚で日増体量が改善されました。

今後、より効果的な暑熱対策について引き続き検討します。



入気口付近（軒下）に細霧ノズルを設置し、朝7時から夜7時まで、間欠運転でドライミストを噴射しました

職員情報

受賞報告

企画指導部・普及指導課の辻浩之 主査（現 湘南地域県政総合センター・地域農政推進課・副技幹）が、長年にわたり普及指導業務に携わり、県内畜産農家の経営発展に努めたこと。特に、脂肪酸測定による県内産牛肉の品質向上、和牛登録や担い手支援による県内肉牛生産基盤の安定と強化等に精力的に取り組みが県内の畜産振興に大きく貢献してきたことが評価され、第55回優秀畜産技術者表彰を受賞しましたので報告します。

発行 神奈川県畜産技術センター

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/g8f/index.html>

〒243-0417 海老名市本郷3750 電話(046)238-4056

ファクシミリ(046)238-8634

